

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 8 月 30 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780455

研究課題名(和文) 植民地朝鮮における教育政策の展開と「教育実践研究」の介在

研究課題名(英文) Educational practice research in Colonial Korea

研究代表者

山下 達也 (YAMASHITA, TATSUYA)

明治大学・文学部・専任准教授

研究者番号：00581208

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、植民地朝鮮において政策レベルで決定した教育内容が学校での実践に至る過程に介在した教員の「研究」活動に着目することで、従来、朝鮮総督府による教育政策の内容・変遷のみによって捉えられがちであった植民地教育の特徴を学校や教員という現場の視点から再検討することを目的として行ったものである。

教員らによる「教育実践研究」についての調査・分析の結果、従来の植民地教育史研究にはなかった独自の視点から植民地教育の実態面について新たな知見を得ることができた。

研究成果の概要(英文)： This research focuses on the Educational practice research by teachers in colonial Korea. And the purpose of this research is to review the characteristics of education in colonial Korea.

As a result of survey and analysis on "educational practice research" by teachers, I have made a new discovery about the actual situation of colonial education from a unique perspective.

研究分野：教育史

キーワード：植民地教育史 植民地朝鮮 教育実践研究 植民地教育政策 『朝鮮の教育研究』 京城師範学校 朝鮮初等教育研究会

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、これまでおもに朝鮮総督府による教育施策の方針およびその変遷によって説明されてきた植民地朝鮮における教育の特徴を、教員らによる「教育実践研究」の介在という新たな視座から捉えようとするものである。

植民地朝鮮における教育政策全般については、稲葉継雄や佐野通夫らによって、その内容や方針の特徴、時期による変化(連続と断絶)が明らかにされるとともに、近年では、

総督期という従来の時期区分についての再検討も行なわれてきた。こうした政策面からのアプローチにより朝鮮で行なわれた教育について検討することは重要かつ不可欠な営みであることはいまでもない。しかし、その一方で、決定された教育政策の内容を受け、現場(学校)ではどのような教育実践が展開されたのか、また、実践に至る過程で教員たちがどのような「教育実践研究」を行っていたのかという観点から植民地期の教育について検討することは、当時の教育をめぐる実態に迫るうえで極めて重要となる。

管見の限り、学校現場での実践という視点を有する先行研究として、朝鮮総督府編纂の教科書の内容とその変化を明らかにしたものや、日本語教育、歴史教育、唱歌、体育の実践内容を明らかにした論考がある。ある特定のテーマや教科・科目に限定されるものではあるが、こうした先行研究の成果は、当時の学校における教育実践の内容を捉えるうえで示唆に富むものである。

しかし、ここで研究代表者が問題としたのは、「政策決定 教育実践」の過程に介在した教員の政策理解や解釈、「教育実践研究」の存在が見落とされてきた点である。研究代表者は、本研究を開始するまでに植民地朝鮮における教員に関する論考を蓄積しており、その結果として、ある層の教員たちが積極的に「教育実践研究」に携わり、その成果を朝鮮全土の学校・教員たちに対し、使命感をもって公開していかくつかの事例を明らかにしている。こうした成果を踏まえると、植民地教育政策の実態は、それを担った教員の政策理解や解釈、それに基づいて行なわれた「研究」の内容と深く関わっていたと考えられる。すなわち、教育政策の展開過程に存在した教員の思想や「研究」について明らかにしない限り、植民地教育政策の展開過程を構造的に把握することができず、朝鮮において少なからず存在していた政策の方針と現場での実践の乖離や葛藤についても明らかにすることができないのではないかと考えられる。

以上が研究開始当初の背景である。

### 2. 研究の目的

本研究は、植民地朝鮮において政策レベルで決定した教育内容が学校での実践に至る

過程に介在した教員の「研究」活動に着目することで、従来、朝鮮総督府による教育政策の内容・変遷のみによって捉えられがちであった植民地教育の特徴を、学校や教員という現場の視点から再検討することを目的とした。

すなわち、本研究は従来の植民地教育史研究にはなかった独自の視点から植民地での教育について新たな知見を得ることをねらいとするものである。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、文献資料の分析を中心に行ったが、必要に応じて植民地朝鮮において教壇に立った経験を有する元教員への聞き取り調査を行い、口述の資料も有効に活用するという方法をとった。具体的な口述資料の用い方としては、事実の確認や事例の提示など、史料の補足的な役割を果たすものとして活用することとした。

(2) これまで元教員との面会の際に、指導案、師範学校の生徒手帳、卒業文集、日記、任命状、児童の作文等の貴重な資料を入手し得たため、本研究で行う聞き取り調査の際にも、元教員が個人で所有している資料(「教育実践研究」関係)の発掘に努め、一度の調査で研究を効率的に進めることができるようにした。

(3) さらに、「アジア歴史資料センター」や「近代朝鮮関係書籍データベース」、「国家電子図書館」、「韓国歴史統合システム」、「The Korean Historical Connection」などの史料検索・データベースを有効に活用することで、効率的に研究を進めた。

(4) 資料の収集・整理作業を進めるうえで、日本、韓国の両国で協力者を得、スムーズに研究を進める体制を築いた。

### 4. 研究成果

4年間にわたる研究により、植民地朝鮮における「教育実践研究」に関する新たな知見を得ることができた。それらについて、研究実施年度にそくして述べる。

#### (1) 平成26年度

初年度となる平成26年度は、おもに植民地期朝鮮における師範学校および附設研究会の「教育実践研究」活動についての調査・分析を行なった。

具体的には、官立京城師範学校附属初等学校内に設置された朝鮮初等教育研究会を調査・分析の対象とし、その活動について可能な限り跡付けた。1928年4月～1941年6月まで朝鮮初等教育研究会がほぼ月刊で発行した『朝鮮の教育研究』全号を入手し、掲載された論考、教育実践報告、教材研究等をその内容に応じて分類・整理したうえで分析し、

量・質の両面から朝鮮における「教育実践研究」活動の特徴に迫った点は初年度における最大の成果である。敷衍すると、『朝鮮の教育研究』に掲載された3,105篇の投稿を「教科・科目教育関係」、「学校・学級経営関係」、「児童・生徒関係」、「教育一般」、「その他」という5項目に分類し、関心の傾向を把握することに加え、「教科・科目教育関係」のものをテーマ・内容に応じてさらに各教科に分類して関心の偏りやその変化を明らかにした。また、国語（日本語）教育研究と複式教育研究の担い手や質的特徴に着目し、朝鮮における「教育実践研究」の特徴を見出した。これらには、「内地延長主義」からの脱却といわば「朝鮮型教育実践研究」の確立というスタイルが通底しており、こうした研究が、「時勢及民度二適合」を基調とする朝鮮総督府の教育政策を補強し、支え続けたものであったことを明らかにした。こうした研究の成果は、教員らによる教育実践研究が、植民地教育の展開過程を捉えるうえで決して看過できない極めて重要な営みであったことを示すものであり、従来の朝鮮教育史研究や植民地教育史研究に新たな知見を加えるものといえる。

さらに日本「内地」における「教育実践研究」に関する調査にも取り組み、それらとの比較を通じた「朝鮮型教育実践研究」の特徴を浮き彫りにする作業を進めた。

#### （2）平成27年度

2年目となる平成27年度は、前年度に行なった植民地期朝鮮における「教育実践研究」活動についての調査・分析の結果を踏まえ、その成果を論考としてまとめる作業を主として行なった。

具体的には、第一に、「植民地期朝鮮における初等学校の教育形態 - 複式教育論の分析を中心に - 」と題した論考を執筆し、これが『韓国文化研究』第5号（韓国文化学会）に掲載された。これは、植民地期朝鮮における複式教育に焦点をあて、従来の研究では見落とされがちであった「教育形態」という観点から当時の初等教育について論じたものである。慢性的な教員不足問題が複式という教育形態を選択させる遠因となったことや、複式教育に関する教員講習会の内容・特徴を明らかにすることに加え、教員らによる「教育実践研究」により、1930年代に複式教育観の転換が図られたことについて論じた。

第二に、「植民地期朝鮮の教育実践研究 - 『朝鮮の教育研究』の分析を中心に - 」と題した論考を執筆し、これが『アジア教育』第9巻（アジア教育学会）に掲載された。これは、朝鮮における初等教育の「改善振興」を図るために設立された朝鮮初等教育研究会の活動およびその発行雑誌（『朝鮮の教育研究』）についての分析を行い、「教育実践研究」が植民地という環境下において行われたがゆえに帯びた独自性や限界（植民地権力への

従属性）について論じたものである。

いずれも植民地期朝鮮における「教育実践研究」活動に関する調査と分析によって得られた知見をまとめたものであるとともに、次年度以降の課題を明確にするものでもあった。

#### （3）平成28年度

3年目となる平成28年度は、植民地期朝鮮における学校教員らの「教育実践研究」に関する調査を継続するとともに、「教育実践研究」を担った教員のネットワーク形成に関する調査・分析を行った。

換言すると、初年度から行ってきた朝鮮の学校・機関（おもに京城師範学校に敷設された朝鮮初等教育研究会）での研究活動への着目だけでなく、教員らの出身校という新たな視角を採用し、朝鮮における「教育実践研究」を担った教員らの繋がりや広がりについて検討した。

具体的には、「内地」の広島高等師範学校を卒業し、朝鮮で教員となった集団に焦点をあて、教員人事や教育活動等にどのようなネットワークが築かれていたかということについて検討を行い、その成果を教育史学会第60回大会のコロキウムにて発表した。また、その際の知見を、『外地』中等教員ネットワークと広島高等師範学校 朝鮮における師範教育界の事例に着目して』としてまとめ、『外地』中等教員ネットワークの形成過程 広島高等師範学校を中心に』に掲載した。同論考では、赤木萬二郎を中心に京城師範学校で広島高等師範学校卒業教員の繋がりが形成されたこと、朝鮮における「教育実践研究」の成果を発表するための雑誌として『朝鮮の教育研究』が発刊される際には、広島高等師範学校が発行していた雑誌『学校教育』が意識されていたことなどが明らかとなり、本研究課題を進めるうえでの重要な知見が得られた。

#### （4）平成29年度

最終年度となる平成29年度はおもに植民地朝鮮において行われた「教育実践研究」の内容・特徴と実際の教育実践内容との関係性についての調査・分析を行うとともに、これまで行ってきた研究のまとめることに注力した。

前者については、『朝鮮の教育研究』等、教育関係雑誌に発表された「教育実践研究」の内容が必ずしも現場での実践と密接な関わりを持ったものばかりではなかったことを明らかにした。雑誌に発表される「教育実践研究」の多くは朝鮮の初等学校において課題となるものを取り上げ、「研究」したものであったが、その成果を踏まえた実践が可能であるのは、例えば京城師範学校附属学校のような一部の学校に限られるものも多く、その他の大多数の学校では課題の次元が異なっているケースが散見された点は、当時の学

校教育の実態を窺わせる知見であった。

後者については、1~4年目で行った研究の成果を整理し、植民地朝鮮における教育政策の展開と「教育実践研究」の介在という大きなテーマにそくして得られた知見をまとめた。本研究は、植民地朝鮮において政策レベルで決定した教育内容が学校での実践に至る過程に介在した教員の「研究」活動に着目することで、従来、朝鮮総督府による教育政策の内容・変遷のみによって捉えられがちであった植民地教育の特徴を、学校や教員という現場の視点から再検討することを目的として行ったものであった。「教育実践研究」についての調査・分析を行った結果として、政策史だけでは捉えられない教員の解釈、葛藤、実践内容について明らかにすることができ、植民地教育の展開の実態について独自の視点から新たな知見を加えることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

山下達也『『外地』中等教員ネットワークと広島高等師範学校—朝鮮における師範教育界の事例に着目して—』、『『外地』中等教員ネットワークの形成過程—広島高等師範学校を中心に—』、査読無、2017、40-48

山下達也「植民地期朝鮮の教育実践研究—『朝鮮の教育研究』の分析を中心に—」、『『アジア教育』、査読無、第9巻、2015、27-49

山下達也「植民地期朝鮮における初等学校の教育形態—複式教育論の分析を中心に—」、『『韓国文化研究』、査読有、第5号、2015、33-60

山下達也、田中光晴、樋口謙一郎、嶋内佐絵「韓国における教員養成課程の国際化の取り組みと課題—GTU事業を事例として—」、『『明治大学教職課程年報』、査読無、第37巻、2015、47-58

〔学会発表〕(計 件)

山下達也「『外地』中等教員ネットワークと広島高等師範学校—朝鮮における師範教育界の事例に着目して—」、『教育史学会第60回大会、2016

山下達也「成人と教育—「子ども」概念からの考察—」、『韓国文化学会第6回大会、2016

田中光晴、山下達也、樋口謙一郎「教員

養成課程の国際化に向けた取り組みと課題—韓国のGTU事業を事例に—」、『アジア教育学会第9回大会、2014

山下達也「日韓比較教育研究と史学的視点・方法—教育史研究の立場から—」、『日本比較教育学会第50回大会、2014

〔図書〕(計1件)

山下達也 他、協同出版、『教育の歴史・理念・思想』、2014、243-254

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

山下 達也 (YAMASHITA Tatsuya)  
明治大学・文学部・准教授  
研究者番号：00581208

(2)研究分担者  
なし

(3)連携研究者  
なし

(4)研究協力者  
なし